

## 平成26年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成26年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

平成26年4月22日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語A 25人 国語B 25人

② 算数A 25人 算数B 25人

#### 5 留意事項

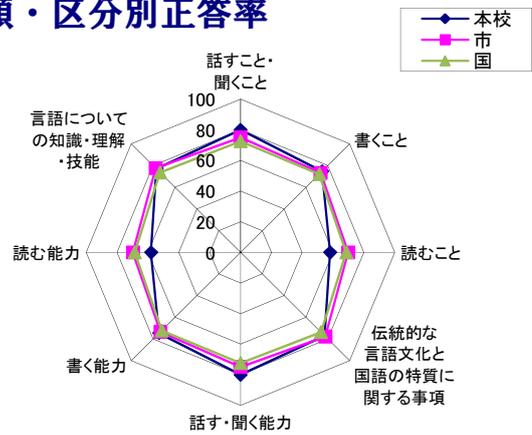
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、  
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立上河内西小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

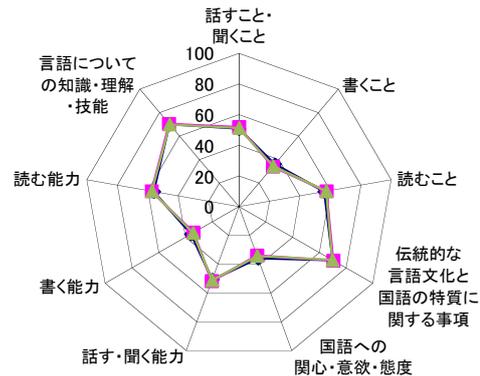
### 【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	80.0	74.9	72.4
	書くこと	74.7	73.4	72.2
	読むこと	58.0	69.7	68.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.0	77.8	73.7
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	80.0	74.9	72.4
	書く能力	74.7	73.4	72.2
	読む能力	58.0	69.7	68.5
	言語についての知識・理解・技能	77.0	77.8	73.7



### 【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	50.7	51.9	51.2
	書くこと	36.0	34.0	34.4
	読むこと	56.0	57.5	57.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.0	70.5	69.8
観点	国語への関心・意欲・態度	36.0	34.0	34.4
	話す・聞く能力	50.7	51.9	51.2
	書く能力	36.0	34.0	34.4
	読む能力	56.0	57.5	57.3
	言語についての知識・理解・技能	70.0	70.5	69.8



## ★国語に関する質問紙調査の状況

○良好なもの ●課題が見られるもの

○国語に関する質問において、肯定的な回答の割合はほとんどの項目で全国平均と同等もしくは上回っていた。特に、「国語の勉強は大切だと思う」では100%の児童が肯定的に回答している。また、「自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いているか」や段落や話のまとめりごとに内容を理解しながら読んでいるかの問いでは、全国平均を上回っていた。しかし、「読書は好きですか」の項目では、全国平均を13ポイント、宇都宮市の平均を15ポイントも下回っている。また、「国語の勉強が好きか」の問いでも、全国平均と同等ではあるものの、市の平均を6ポイント下回っている。このことから、国語の学習の必要性について十分に感じ学ぶ意欲はあるものの、国語の学習に対して楽しみを感じていないことが分かる。

## ★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

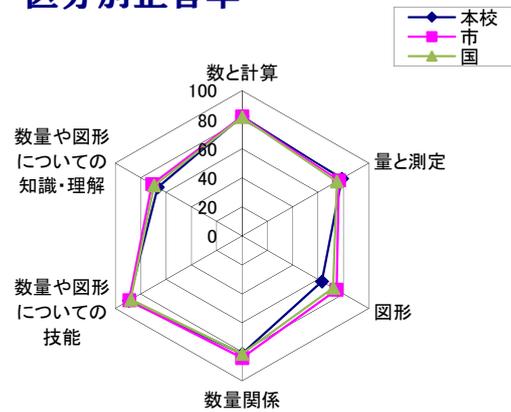
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○A問題では全国、県、市の平均をやや上回っており、B問題ではほぼ同等である。ほとんどの設問で、全国、県平均と同等かやや上回っている。 ●B問題の討論会における他者への質問のねらいとして適切なものを選択する設問では、やや全国、県の平均を下回っている。	・話し合いを計画的に進め、一定の結論に導いていくためには、互いの立場や意図を明確にして質問をし合うことが大切である。そのためにも、多様な質問の観点とそれに基づく話型を具体的に指導していきたい。
書くこと	○A問題、B問題ともに全国、県、市の平均をやや上回っている。 ○特に「～たり、～たり」という複数の事柄を並列の関係で書く設問では10ポイント以上全国、県平均ともに上回った。	・書くことの技能はある程度は身に付いているが、自分の考えや意見を書くことが苦手だと感じている児童も多いので、日常的に書いて表現する活動を取り入れていきたい。
読むこと	●A問題B問題ともに全国、県、市の平均を下回っている。 ●新聞の投書を読み表現の仕方を捉える設問で、全国平均を15ポイント、県の平均を16ポイント下回っていた。 ●課題を解決するために、目次や索引を活用して、本を効果的に読むといて、全国平均を12ポイント、県の平均を14ポイント下回っていた。	・意見文の学習では、書き手の意見を効果的に伝えるための内容構成や書き出し、文末表現などの工夫を捉えることができるよう指導していきたい。 ・目的に合わせた本の選び方、目次や索引の使い方、資料として活用したい内容の取り上げ方などを身に付けることができるよう、引き続き指導していきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○A問題、B問題ともに全国、県の平均はやや上回っているものの、市の平均はやや下回っている。 ○漢字の「祝う」「予防」を書く設問では、正答率が全国、県の平均を上回っている。 ○故事成語「五十歩百歩」の意味と使い方の理解でも正答率が全国平均、県の平均を20ポイント以上上回っている。 ●漢字の「勢い」を読む設問では、全国平均、県の平均を下回っていた。	・実際の場面や文脈に合わせて言葉を適切に使い分けられるようにすることが大切である。日常生活においても国語辞典を使って言葉の意味や使い方を調べる習慣を付けるなど、言語に対する関心を高めていきたい。

# 宇都宮市立上河内西小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

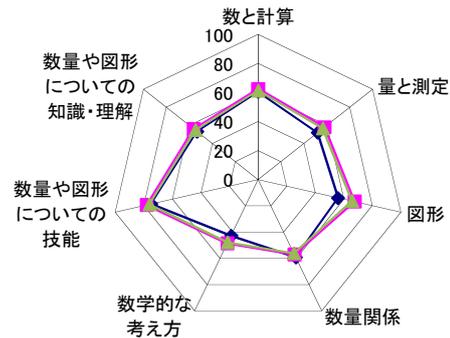
### 【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	数と計算	82.5	82.2	81.8
	量と測定	78.7	76.4	74.8
	図形	63.0	74.5	71.8
	数量関係	81.3	84.2	81.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	89.5	89.1	87.9
	数量や図形についての知識・理解	66.7	71.1	69.5



### 【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	数と計算	60.5	62.6	61.3
	量と測定	52.0	58.0	56.5
	図形	56.0	67.5	65.7
	数量関係	59.2	57.1	56.2
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	42.7	48.6	47.8
	数量や図形についての技能	75.0	78.1	76.2
	数量や図形についての知識・理解	53.3	56.3	54.8



## ★算数に関する質問紙調査の状況

○良好なもの ●課題が見られるもの

○算数に関する質問において、肯定的な回答の割合はほとんどの項目で全国平均と同等もしくは上回っていた。特に、「算数の勉強は大切だと思う」では100%の児童が肯定的に回答しており、全国平均を上回っていた。しかし、「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えているか」の項目では、全国平均を10ポイント、宇都宮市の平均を18ポイントも下回っている。また、「算数の勉強が好きか」の問でも、全国平均を6ポイント、宇都宮市の平均を11ポイントも下回っていた。このことから、算数の学習の必要性について十分に感じ学が意欲はあるが、算数の学習に対して楽しみを感じていたり、学習したことを活用したりしていないことが分かる。

## ★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○A問題では全国、県の平均をやや上回っており、市の平均と同等であり、B問題では県の平均とほぼ同等で全国平均、市の平均をやや下回っている。ほとんどの設問でも、全国平均、県の平均と同等かやや上回っている。 ○整数のわり算・かけ算では正答率が100%となった。 ●B問題の数量を相対的に捉え、関係を表す図を選ぶ設問では全国平均、県の平均を8ポイント下回っている。	・基本的な整数の四則計算はできるが、小数や分数が含まれるものなどでは、誤答も見られたので、練習し、習熟を図ってほしい。 ・数量を表す際や立式する際には、図に表すよう指導し、文章をきちんと理解し、計算に取り組みできるようにしてほしい。
量と測定	○A問題では全国、県、市の平均をやや上回っており、B問題ではやや下回っていた。 ●示された情報を基に、条件に合う時間を求める設問では、全国、県の平均を8ポイント下回っていた。 ●示された情報を基に必要な量と残りの量の大きさを判断し、その理由を記述する設問では、正答率が8%と全国平均、県の平均を大きく下回った。	・日常の事象を数理的に捉え、自分の考えをノートにまとめたり発表したりすることができるよう指導してほしい。問題解決に必要な情報を選択し、解決の方法や判断の理由を説明することができるよう訓練してほしい。
図形	●A問題B問題ともに全国、県、市の平均を下回っている。ほとんどの設問でも、全国、県の平均を下回っている。 ●作図に用いられる図形のきまりや性質の確認する設問では、全国平均を16ポイント、県の平均を12ポイントも下回っており、平行四辺形の描き方や特徴について理解していないことが分かる。	・それぞれの図形の特徴について、もう一度確認をし、しっかりと理解させる必要がある。 ・実際に図形を描く活動を多く取り入れ、図形の特徴を関連させながら、作図の仕方についても習熟を図ってほしい。
数量関係	○A問題では全国平均と同等であるが、県、市の平均はやや下回っており、B問題では全国、県、市の平均をやや上回っている。 ○全体の部分の関係を示すグラフを選ぶ設問では、全国平均を7ポイント、県の平均を9ポイント上回っている。 ●四則の混合した式の意味の理解の設問では、全国平均を5ポイント、県の平均を9ポイント下回った。	・四則が混在した計算を、家庭学習なども含め繰り返し練習する場を作り、しっかりと復習できるようにしたい。

## 宇都宮市立上河内西小学校第6学年児童質問紙調査

### ★傾向

### ○良好なもの ●課題が見られるもの

○「テレビのニュース番組やインターネットのニュースをみているか」「友達との約束を守っているか」「人の気持ちが分かる人間になりたいと思っているか」の問いでは、100%の児童が肯定的に回答している。これらから、社会の流れを知った上で、上手に周囲の人間と関係を築きたいと考えていることが分かる。

○「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」では全国平均を12ポイント、宇都宮市平均を10ポイント上回っている。

○「授業の中で分からないことがあったらどうするか」の問いでは、38%の児童が「その場で先生に聞く」と答えていて、全国平均、市平均を大きく上回っており、分からないことがあった時にはそのままにせず、すぐに解決しようとする態度が見られる。

●「普段どのくらいテレビゲームをするか」の問いでは、4時間以上と答えた児童が20パーセントと、全国平均、市の平均と比べてかなり高い。節度をもって時間を有効に活用することに課題があると考えられる。

●「学校の授業時間以外にどれくらい読書をするか」の項目では、52%の児童が10分以下もしくは全くしないの回答しており、全国、市の平均を大きく上回っている。「読書が好きか」との項目でも肯定割合が低いことから、本との出会いを工夫し、読書が楽しいと感じさせる必要があると考えられる。

●「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいか」「授業などで自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすることは難しいか」のそれぞれの問いで、そう思うと答えた児童が72%で、全国、市平均を上回っている。このことから、自分の考えを伝えることに対し、苦手意識があったり難しさを感じていたりすることが分かる。自分の意見や気持ちを言葉にすることについて課題があり、今後、この点において様々な場面で工夫して指導に当たる必要があると考えられる。